

## 第 128 回日本森林学会大会のお知らせ（第 2 回）

一般社団法人 日本森林学会会長  
第 128 回日本森林学会大会運営委員長

第 128 回大会を鹿児島大学農学部で開催します。詳細は随時、学会ウェブサイトの大会のページ（<http://www.forestry.jp/meeting>）に掲載します。日本森林学会メールマガジン（月 1 回配信）でもお知らせいたしますので、登録をお願いします（<http://www.forestry.jp/mail/magazine/>）。

### 1. 日 程

	午 前	午 後
2017 年 3 月 26 日（日）	日本森林学会各賞授賞式 ・受賞者講演	市民公開シンポジウム
3 月 27 日（月）	研究発表	研究発表・懇親会
3 月 28 日（火）	研究発表	研究発表
3 月 29 日（水）	関連研究集会	関連研究集会

### 2. 会 場 鹿児島県鹿児島市（主に鹿児島大学郡元キャンパス）

### 3. 参加・研究発表資格

#### 【会員】

- 大会参加の事前申込みを行うことができます。
- 研究発表を行うことができます。
- 入会予定の方は学会ウェブサイトの「入会案内」を御覧下さい（<http://www.forestry.jp/welcome.html>）。入会手続きが完了していませんと、学術講演集原稿（要旨）の入稿ができませんので、お早めに入会手続きをお済ませください。

#### 【非会員】

- 大会当日の受け付けにより参加することができます。事前のオンライン登録はできません。
- 研究発表を行うことはできません。ただし企画シンポジウムでは、非会員の発表が認められる場合があります（その場合は、オンラインでの事前参加登録と研究発表登録を行い、参加費をお支払ください）。

#### 【研究発表を行わない学部生（大会参加登録開始の時点で学部に所属している学生）】

- 会員・非会員ともに大会参加費が無料となります。大会当日のみの受け付けです。事前のオンライン登録はできません。なお、「発表を行う学部生の学生会員」および「学部生以外の学生会員（例えば大学院生）」は大会参加費をお支払ください。

### 4. 研究発表の概要

- 研究発表は、部門別口頭発表、部門別ポスター発表、公募セッション（口頭発表；ポスター発表を受け付けるセッションもあり）、企画シンポジウム（口頭発表のみ）に分けて行います。
- 発表者は筆頭者に限ります。また筆頭者としての発表は、すべての発表形式を通じて 1 人 1 件に限ります（ただし学会各賞を受賞された方の受賞講演は除きます）。

- 部門別口頭発表と部門別ポスター発表、公募セッションの発表者は本学会会員（平成 29 年度分）に限ります。会員でない方は、研究発表申込みの前に、学会ウェブサイトの「入会案内」 (<http://www.forestry.jp/welcome.html>) から入会の手続きを行ってください。
- 部門別口頭発表、部門別ポスター発表、公募セッションのいずれで発表するかは、原則として発表者の希望によりますが、プログラム編成委員会で調整を行う場合がありますので、ご了承ください。第 128 回大会ではポスター発表会場のスペースに制限がありますので、なるべく口頭発表にお申込みください。
- 研究発表は、森林学に関する研究成果で、学術講演集の原稿の締切（2017 年 1 月 12 日（木））までに結果と結論の得られるものとします。
- 研究発表申込みの際に登録した著者名・所属、題名は、2016 年 11 月 17 日（木）17:00 以降は修正ができません。したがって、学術講演集原稿の提出時にも修正ができません。申込みの際には共著者（特に学生の方は指導教員の先生等）とよく相談した上でお申込みください。
- 口頭発表の器材は液晶プロジェクターとします。OHP は使用できません。

## 5. 研究発表の種類

### 【部門別口頭発表、部門別ポスター発表】

第 128 回大会では、林政、風致、経営、造林、遺伝・育種、生理、植物生態、立地、防災、利用、動物・昆虫、微生物、特用林産の 13 の部門が設置されます。部門の選択の際には、6. の部門キーワードを参考にしてください。

### 【公募セッション】

公募セッションは、既存の部門ではカバーできない部門横断的なテーマについて会員の研究交流を継続的に進めることを目的としたセッションです。ポスター発表が併設される公募セッションもあります。発表者は公募のみで、部門別発表と同様の発表形式です。128 回大会で設置される公募セッションは、学会ウェブサイトに掲載します（9 月下旬を予定しています）。

### 【企画シンポジウム】

企画シンポジウムは、森林学に関する明瞭で簡潔にまとめたテーマをもったシンポジウムです。発表者は公募せずコーディネータが決定します。企画シンポジウムの講演者も研究発表の申込みを行ってください。128 回大会で開催される企画シンポジウムは、学会ウェブサイトに掲載します（9 月下旬を予定しています）。

\* 公募セッション・企画シンポジウムは会員がコーディネータとなって企画します。応募する方は、「公募セッション・企画シンポジウムの募集」をご覧ください。応募の締切は 2016 年 8 月 25 日（木）です。

## 6. 部門キーワード

### 林政部門

経済学・社会学的アプローチ、森林・林業政策、林業経済、木材産業・流通、山村社会・経済、環境・資源ガバナンス、自然資源管理政策、森林環境教育、伝統文化、市民参加・住民参加  
Forest Policy

economic and sociological approaches, forest and forestry policy, forest economy, forest products industry and market, mountain village society and economy, governance on the environment and resources, natural resource management policy, forest environmental education, traditional culture, public participation

#### 風致部門

空間・計画論的アプローチ, 景観, 公園緑地, 世界遺産, 森林療養, 観光, レクリエーション, 保護地域管理, 伝統文化

Landscape Management

spatial and planning approaches, landscape, parks and open spaces, world heritage, forest therapy, tourism, recreation, protected area management, traditional culture

#### 経営部門

森林計画, 経営評価, 機能評価, 森林作業法, 森林調査法, 成長モデル, モニタリング, リモートセンシング, 森林 GIS, 景観管理, 環境教育, LiDAR, 航空レーザ測量, 地上レーザ測量, デジタル航空写真測量, SfM, REDD+, 収穫予測, ゾーニング, オペレーションズリサーチ

Forest Management

forest planning, forest management assessment, forest function evaluation, forest working system, forest inventory, growth model, monitoring, remote sensing, forest GIS, landscape management, environmental education, LiDAR, airborne laser scanning, terrestrial laser scanning, digital photogrammetry, SfM, REDD+, yield prediction, forest zoning, operations research

#### 造林部門

人工林, 成長, 競争, 林分構造, 密度管理, 光環境, 種子生産, 種子散布, 育苗, 植栽, 下刈り, 間伐, 皆伐, 長伐期施業, 複層林施業, 混交林施業, 広葉樹林化, 天然更新, 萌芽, 里山管理, バイオマス, 低コスト造林

Silviculture

planted forest, growth, competition, stand structure, density control, light environment, seed production, seed dispersal, nursery practices, planting, weeding, thinning, clearcutting, long-rotation forestry, uneven-aged forestry, mixed forest management, restoration of natural forest, natural regeneration, coppice, satoyama, biomass, low-cost silviculture

#### 遺伝・育種部門

遺伝子資源保全, 林木育種, 育種計画, 材質育種, 抵抗性育種, 花粉症対策, 特性評価, 種苗増殖, 育苗技術, 採種園, 組織培養, 分子育種, 遺伝子工学, ゲノム解析, 連鎖解析, 発現解析, 遺伝子流動, 遺伝構造, 遺伝的多様性, 系統地理

Forest Genetics and Tree Breeding

genetic conservation, tree breeding or forest tree improvement, breeding strategy, improvement of wood property, breeding for resistance, countermeasure for pollinosis, test of specific character, propagation of nursery stocks, nursing technology, seed orchard, tissue culture, molecular breeding, genetic engineering, genome analysis, linkage analysis, analysis of gene expression, gene flow, genetic structure, genetic diversity, phylogeography

#### 生理部門

樹木生理, 個体生理, 生態生理, 水分生理, 光合成, 呼吸, 栄養成長, 生殖成長, 環境応答, ストレス応答, 代謝, 栄養, 物質輸送, 植物ホルモン, 細胞内小器官, 細胞壁, 組織培養, 形質転換, 遺伝子発現, ゲノム科学, オミクス解析

## Tree Physiology

tree physiology, whole plant physiology, ecophysiology, water relation, photosynthesis, respiration, vegetative growth, reproductive growth, environmental response, stress response, metabolism, nutrition, transport, plant hormones, organelle, cell wall, tissue culture, genetic transformation, gene expression, genomics, omics

## 植物生態部門

生物多様性, 生態系サービス, 生態系機能, 生態系管理, ゾーニング, 森林景観, 順応的管理, 生物群集, 生物間相互作用, 攪乱, 植生遷移, 物質循環, 森林動態, 植物遺体, 樹形, 生活史戦略, 気候変動, 地理分布, モデル

## Forest Ecology

biological diversity, ecosystem service, ecosystem function, ecosystem management, zoning, forested landscape, adaptive management, plant community, biological interaction, disturbance, plant succession, material cycle, forest dynamics, litter and woody debris, tree architecture, life-history strategy, climate change, geographical distribution, model

## 立地部門

土壌生成, 土壌分類, 土壌理化学性, 炭素動態, 窒素動態, 物質循環, 気象害, 水循環, 土壌生物, 花粉分析, 地位, 植物生態, 森林衰退, 大気降水, 地球温暖化, 細根動態, 放射性物質, 生物地球化学, 土壌呼吸, 温室効果ガス

## Forest Environment

pedogenesis, soil classification, soil physical and chemical properties, carbon dynamics, nitrogen dynamics, nutrient cycling, meteorological damage, hydrological cycle, soil organisms, pollen analysis, site quality, plant ecology, forest decline, atmospheric deposition, global warming, fine root dynamics, radioactive substance, biogeochemistry, soil respiration, greenhouse gas

## 防災部門

森林防災, 土砂災害, 斜面安定, 表面浸食, 水文, 水循環, 流域, 集水域, 降雨流出過程, 蒸発散, 樹木の水分生理, 土壌水分, 森林気象, 緑化, 水質, 物質循環, 同位体, トレーサー, 大気降水, 地下水, 温室効果ガス, 気候変動

## Forest Disaster Prevention and Hydrology

forest disaster prevention, sediment-related disaster, slope stability, surface erosion, hydrology, water cycle, catchment, watershed, rainfall-runoff process, evapotranspiration, water-related plant physiology, soil moisture, forest meteorology, revegetation, water quality, biogeochemical cycle, isotope, tracer, atmospheric deposition, groundwater, greenhouse gases, climate change

## 利用部門

森林路網, 林業土木, 木材生産, 林業機械, 林業用ロボット, 作業システム, 労働科学, 安全管理, バイオマス利用, 森林情報, ロジスティクス, 環境へのインパクト, ICT, 再造林技術

## Forest Engineering

forest road network, forest civil engineering, timber production, forest machinery, forestry robot, working system, ergonomics, safety management, biomass utilization, forest information, logistics, environmental impact, information and communication technology, reforestation technology

#### 動物・昆虫部門

森林昆虫, 森林病虫害, マツ枯れ (マツ材線虫病), ナラ枯れ (ブナ科樹木萎凋病), キクイムシ, 共生微生物, 森林動物, 野生動物管理, ニホンジカ, ツキノワグマ, 森林性鳥類, 生物間相互作用, 生物群集, 食物網, 生物多様性, 個体群動態, 密度調節, 大発生, 種子散布, 土壌動物, 外来生物

#### Forest Insects and Animals

forest insects, forest pest, pine wilt disease, oak wilt, scolytid and platypodid beetles, symbiotic microbes, vertebrates in forests, wildlife management, sika deer, Asian black bear, forest birds, biological interaction, ecological community, food web, biodiversity, population dynamics, regulation of population density, outbreak, seed dispersal, soil animals, alien organisms

#### 微生物部門

菌類, 細菌類, 菌根菌, 内生菌, 木材腐朽菌, 共生, 寄生, 分解, 養分循環, 根粒, 窒素固定, 微生物群集生態, 微生物集団遺伝, 樹病, 病原, 防除, 抵抗性, マツ枯れ, ナラ枯れ, 線虫, ウィルス

#### Forest Microbes

fungi, bacteria, mycorrhizal fungi, endophytes, wood-decay fungi, symbiosis, parasitism, decomposition, nutrient cycle, root nodule, nitrogen fixation, microbial community ecology, microbial population genetics, forest pathology, pathogens, disease control, disease resistance, pine wilt disease, oak wilt disease, nematodes, virus

#### 特用林産部門

きのこ, マツタケ, シイタケ, エノキタケ, シメジ, たけのこ, わさび, うるし, 樹脂, 山菜, 竹材, トウ, 木炭, 樹実類, 薬用植物

#### Non-Wood Forest Products

mushrooms, Matsutake, Shiitake, Enokitake, Shimeji, bamboo shoot, wasabi, lacquer, resin, edible wild plants, bamboo, rattan, charcoal, wild fruits, medicinal plants

## 7. 大会参加の申込み

大会参加ならびに懇親会の参加申込みは、すべて学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンライン登録で行います。Fax, E-mail による大会参加の受け付けは行いません。大会参加・研究発表申込み専用サイトは、学会のウェブサイトに10月下旬頃に開設します。

研究発表をする場合は、大会参加の申込みと8.の研究発表の申込みの両方を行ってください。

締切：2016年11月17日（木） 17：00（研究発表をする場合）

締切：2017年1月12日（木）（研究発表はしないが、大会に参加し参加費を前納する場合）

- 登録の際、会員番号の入力が必要です。

会員番号は日本森林学会誌が封入されている封筒の表側に記載されています。これから入

会を予定しており、参加申込みの時点で会員番号をまだお持ちでない方は、専用サイトから登録を行う際に仮番号が自動的に用意されます。ただし、研究発表をされる場合、正式の会員番号が入力されなければ学術講演集原稿の提出ができません。学術講演集原稿の提出締切の2017年1月12日までに会員番号が確実にお手元に届くよう、どうか余裕をもって入会手続きを行ってください。

- 大会参加の申込み時に参加費の払込みを行います。  
参加費の払込みは基本的に専用サイトからカード決済（VISA, MASTER）で、期日までをお願いします。大会参加費等の詳細は、学会ウェブサイトに掲載します。郵便振替をご利用の方は専用サイトで郵便振替選択ボタンをチェックの上、期日までに事務局で確認されるように振替を行ってください。払込取扱票は、参加者1名につき必ず1枚ずつ使用してください。郵便振替によるお支払いは、学会事務局で確認されるまでに7~10日程度かかる場合もあります。どうか余裕をもってお支払い手続きを行ってください。いったん納入された大会参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費の払込み手続きが行われない場合には、研究発表をキャンセルしたものとして処理いたしますのでご注意ください。
- 研究発表をしない場合、事前の参加申込みでなく大会当日の参加申込みは可能ですが、受付が混雑して手続きに時間がかかることが予想されます。また、予想を上回る当日参加者があった場合、プログラムおよび大会学術講演集の配布ができない可能性がありますので、上記締切までにお申込みいただくようお願いします。

## 8. 研究発表の申込み

研究発表の申込みは、学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンライン登録で行います。大会参加申込みをただけでは、研究発表の申込みは完了していません。必ず大会参加申込みの後に研究発表申込みを行ってください。専用サイトは10月下旬頃に開設します。

締切：2016年11月17日（木）17：00

- 研究発表の申込みの受理には、参加費の払込みが事務局で確認されることが必要となります。参加費の払込みが確認できない場合は、研究発表をキャンセルしたものとして処理いたしますのでご注意ください。
- 留意点などは、「4. 研究発表概要」および「5. 研究発表の種類」を御覧ください。

## 9. 学術講演集原稿の提出

学術講演集の原稿は、学会ウェブサイトの大会参加・研究発表申込み専用サイトからオンラインで入力してください。

締切：2017年1月12日（木）17：00

- 参加費の払込みが事務局で確認された時点で、入稿が可能となります。入会予定の方は、入会手続きの完了も必要となります。
- 原稿は、全角500字に相当するバイト数（制御文字含む）以内で日本語、または英語で入力してください（図表は使用できません）。ギリシャ文字、斜体、下付・上付文字などの入力は、入力画面の説明を参考にしてください（ワープロからコピー&ペーストしても文字飾りは反映されませんのでご注意ください）。詳しい入力方法については、ウェブサイト以案内

を掲載する予定です。また、2016年11月17日(木)17:00以降は、著者名・所属、題名の変更はできません。

- 学術講演集は冊子として印刷され、大会当日配布されるとともに、大会開催の約1ヶ月前に学会ホームページに掲載いたします。また、大会終了後には大会発表データベース（予稿集公開システム J-STAGE）にて公開される予定です。

## 10. 学生ポスター賞について

日本森林学会学生ポスター賞は、日本森林学会大会で優れたポスター発表を行った学生会員に授与されます。学生会員が筆頭発表者であり、研究発表申込み時に学生ポスター賞にエントリーしたポスター発表が対象です。学生会員の積極的な参加を期待しています。また指導の先生方も、参加を是非お勧めください。

### 11. 高校生ポスター発表募集

日本森林学会では、青少年における森林・林業への興味関心を喚起し、中等教育における学習研究を支援する目的から、第125回大会より高校生のポスター発表を実施しています。第128回大会でも同様にポスター発表を募集いたします。発表申込みの受け付けは11月頃を予定しています。会員の皆様におかれましては、お知り合いの高校の先生・生徒の皆さんにポスター発表をお勧めいただければ幸いです。

### 12. 保育室の設置について

第128回大会では、大会参加者がどなたでも利用できる保育室を設置します。利用の希望を募ったのちに、保育士の配置や利用料金等を検討し、お知らせします。

### 13. 関連研究集会について

第128回大会に付随して開催を予定している関連研究集会の責任者の方は、日時、テーマ、参加予定人数を2016年11月11日(金)までに大会運営委員会(jfs128@ml.agri.kagoshima-u.ac.jp)にご連絡ください。森林学に関連する研究集会であれば、定期的に開催されているものでなくても構いません。採否は大会運営委員会が判断します。なお、会場費は開催者が負担し、また、会場係等も開催者が手配してください。会場は大きさ(50~250人)により会場費は異なります。原則として3月29日の開催のみ受け付けます。

### 14. 大会に関する連絡先

- 日本森林学会への入会に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

日本森林学会事務局

E-mail: office@forestry.jp

- 第128回大会の参加申込み・発表申込みシステムに関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

日本森林学会事務局

E-mail: taikai@forestry.jp

・第128回大会の研究発表（部門別口頭発表，部門別ポスター発表，公募セッション，企画シンポジウム）に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

日本森林学会プログラム編成委員会

E-mail: 128program@forestry.jp

・第128回大会学生ポスター賞に関する連絡先

〒102-0085 東京都千代田区六番町7 日林協会館内

第128回日本森林学会大会 学生ポスター賞選考委員会

E-mail: hyosyo@forestry.jp

・第128回大会の上記以外（関連研究集会の申込み，高校生ポスター発表の問い合わせを含む）に関する連絡先

〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-24

鹿児島大学農学部農林環境科学科内

第128回日本森林学会大会運営委員会

E-mail: jfs128@ml.agri.kagoshima-u.ac.jp

---

## 公募セッション・企画シンポジウムの募集

### 1) 公募セッションの募集

公募セッションとは，既存の部門ではカバーできない部門横断的なテーマについて，会員の研究交流を継続的に進めることを目的としたセッションです。1回限りではなく，継続性のあるテーマを設定してください。将来の部門化を目指すことも考えられます。

#### <公募セッションの応募と採択>

- ・コーディネータは，セッションのタイトル，趣旨を明記して応募してください。このタイトル，趣旨は，会員への発表募集のお知らせに用いますが，プログラム編成委員会より修正をお願いする場合があります。また，発表募集の前にコーディネータによる修正の機会を設けます。
- ・プログラム編成委員会が公募セッションの採否を決定します。既存部門でカバーできると考えられるもの，テーマが明瞭でないもの，発表者数が少ない，または多すぎるものが予想されるものについては，調整をお願いすることや，不採択とすることがあります。
- ・会場の収容人数は80～280人です。ご希望の会場の大きさ（80，100，210，280人規模）を応募の際にお知らせ頂きますが，ご希望に添えない場合がありますのでご了承ください。

#### <公募セッションの発表方法>

- ・公募セッションの発表形式は，既存の部門別発表と同様の形式です。
- ・発表者は公募のみとします。また，非会員の発表は認めません。
- ・ポスター発表の併設も可とします。併設のご希望は，応募の際にお知らせください。

- 口頭発表時間は、部門での通常の口頭発表の時間（質疑込みで1人あたり15分）と同一とします。時間の延長や短縮は認めません。
- 総合討論等は3-6件に1コマ（15分）で配置できるようにします。趣旨説明等も必要があれば配置できるようにします（1コマ15分）。
- 公募セッションの全体の時間制限を事前に設けることはしませんが、会場の都合により発表数（時間）を制限することがあります。

#### <公募セッションのコーディネータの当日までの役割>

- コーディネータは、以下のようにプログラム編成委員会の部門委員会に相当する役割を担っていただきます。
- コーディネータは、申し込まれた発表について当該公募セッションでの発表が適切かどうかを判断し、採択を決定してください（要旨提出前にプログラムを編成しますので、タイトル、キーワード、著者のみでご判断いただきます）。不採択の発表の申込者に連絡し、適切な部門等を紹介してください。またポスター発表を併設する場合は、口頭発表とポスター発表のどちらにするのかについても判断し、発表形式の変更がある場合には申込者へ連絡してください。
- コーディネータには、発表順の決定、総合討論の時間の配置、座長の決定等のプログラム編成作業を行っていただきます。11月上旬から12月上旬にこの作業を行っていただきますので、この期間の長期出張等は避けていただき、メールでの連絡が取れるようにしてください。
- コーディネータが複数の場合は、筆頭者を代表者とし、代表者の方のみにメールでの連絡を差し上げます。プログラム編成委員会との連絡を担当される方を代表者（筆頭者）としてください。

#### <公募セッションのコーディネータへの注意事項>

- 部門別の口頭発表と同一の時間帯に公募セッションの口頭発表を行います。このためコーディネータは他の公募セッションや部門の口頭発表にはほぼ参加できないとお考えください。
- 複数の公募セッションのコーディネータになることはできません。
- コーディネータは、他の公募セッションあるいは部門別の口頭発表や座長はできません。
- コーディネータ自身が当該公募セッションで発表してもかまいません。

#### <公募セッションの発表者への注意事項>

- 公募セッションの発表者は、企画シンポジウムでの発表や、他の公募セッション、部門別の口頭発表、筆頭者としてのポスター発表はできません（大会中の筆頭者としての発表は1つ）。

## （2）企画シンポジウムの募集

企画シンポジウムは、会員がコーディネータとなって企画する、森林学に関する明瞭で簡潔にまとまったテーマをもったシンポジウムです。

#### <企画シンポジウムの応募と採択>

- コーディネータは、シンポジウムのタイトル、趣旨、発表予定者を明記して応募してください。このタイトル、趣旨は、会員へのお知らせに用いますが、プログラム編成委員会より修正をお願いする場合があります。また、コーディネータによる修正の機会も設けます。応募の時点では発表者が確定していなくても構いませんが、遅くとも11月下旬の発表申込みの締切までには確定してください。
- 3時間以内に納まるように企画してください。
- 部門委員会が企画するシンポジウムもこの枠で企画してください。



## 申込み方法

次の方法で、2016年8月25日（木）（必着）までに申し込んでください。プログラム編成委員会で調整した後、2016年9月23日（金）までにコーディネータ（複数の場合は代表者）に採否をお知らせします。

下記を E-mail 本文に直接書込み、サブジェクトを「公募セッション申込み」または「企画シンポジウム申込み」とし、下記の日本森林学会プログラム編成委員会のアドレスにお送りください。E-mail を受取りましたら確認の返信をします。返信がない場合には、再度連絡をお願いします。E-mail アドレス：128program@forestry.jp

### (1) 公募セッションの場合

1. タイトル(日本語)
2. タイトル(英語)
3. 趣旨(日本語または英語) (日本語の場合、全角 800 字以内。英語の場合は、同程度の長さ)
4. コーディネータ (複数の場合も全ての方についてお書きください。複数の場合は、一番上の人を代表者としてください。代表者にのみ連絡を差し上げます。) (趣旨が英語の場合は、氏名、所属の英語表記もお知らせ下さい。)
  - 1) 氏名(ふりがな)
  - 2) 所属
  - 3) 連絡先 ①郵便番号, ②住所, ③電話番号, ④E-mail アドレス
5. 希望の会場の大きさ(80, 100, 210, 280 人規模からお選びください。)
6. ポスター発表の設置希望の有無
7. プログラム編成委員会への要望・連絡等

### (2) 企画シンポジウムの場合

1. タイトル(日本語)
2. タイトル(英語)
3. 趣旨(日本語または英語) (日本語の場合、全角 800 字以内。英語の場合は、同程度の長さ)
4. コーディネータ (複数の場合も全ての方についてお書きください。複数の場合は、一番上の人を代表者としてください。代表者にのみ連絡を差し上げます。) (趣旨が英語の場合は、氏名、所属の英語表記もお知らせ下さい。)
  - 1) 氏名(ふりがな)
  - 2) 所属
  - 3) 連絡先 ①郵便番号, ②住所, ③電話番号, ④E-mail アドレス
5. 希望の会場の大きさ(80, 100, 210, 280 人規模からお選びください。)
6. 発表予定者リスト(各発表予定者の氏名と所属)
7. 発表者に非会員を含める場合、その理由
8. 希望時間(3 時間以内。15 分単位で記入してください。)
9. 関連する部門(林政, 風致, 経営, 造林, 遺伝・育種, 生理, 植物生態, 立地, 防災, 利用, 動物・昆虫, 微生物, 特用林産の中からお選びください。)
10. プログラム編成委員会への要望・連絡等